

## 浅間隠山 (1756.7M)

【山行日】 2017年2月25(土) 天候 晴れ

【集 合】 小山市役所駐車場 7:00

【費 用】 会費:2,700円、温泉入浴料560円 (合計3,260円)

【メンバー】 CL:高崎SL:阿部(正)、高木、山田、飯田

## 【コースタイム】

小山市役所駐車場 7:00～佐野・藤岡IC～東関東自動車道～関越玉村スマートIC～

浅間隠山登山口 10:10/10:47～急登手前(昼食)12:10/12:50～山頂 13:20/13:45～

五辻 10:40～出会辻 11:00～登山口駐車場 15:00/15:40～はまゆう荘(温泉)16:00/16:45～

倉渕小栗の里(買い物)17:00/17:25～関越高崎IC18:05～佐野・藤岡IC～小山市役所駐車場 19:10

山行の前日まで毎日のように強い風に襲われて寒さに震えながら、庭の植木の跡付をしていました。今回の山は、風が強くて頂上までいけないのではと心配していました。天気予報も午後から回復との予報で、絶好の山日和ではなさそうです。リーダーも風を心配していて、場合によっては引き返すこともあると事前に念を押されました。ところが、終わってみればとても天候に恵まれ、頂上からの眺望もとても素晴らしく、楽しい一日を過ごすことができました。



小山出発が7時なので、普段の時間に起床しました。朝がゆっくりできて、何かと忙しい身にとっては助かります。やはり群馬高崎まで高速道路で一気に行くことができる事が大きいのではないかと思います。私が20代の頃にスキーで苦労したのとは違って本当に便利になったものだ、と車中で感心していました。ところが、高崎ICを目前になにか雲行きが怪しくなります。事故かと思ったのですが、スキーに向かう車で渋滞しているとのこと。そこで予定を変え、玉村スマートIC(出口専用)でR17号に下りる事にしました。ここからは比較的流れがよく登山口に向かいます。山奥に行くほどコンビニがなくなるとの情報で、早めにお昼の食材を仕入れ、次は小栗の里(道の駅)で小休止です。帰りの土産を物色しておきました。

高速道路の渋滞で少し遅れましたが、無事に登山口に着きました。幸い、駐車場は最後の1台のスペースがあり、首尾よく駐車できました。道路には雪もなく、山には雪はあるが山肌がよく見えています。もう雪が消えてしまったのかとリーダーに問うと、まあこんなもので、雪は平年並み、特に多くもなく少なくもないとのことでした。

駐車場から少し道路を下ると登山口の標識があり、そこから登山道になります。登山道は雪が少ないうえに土が見えていて、まだら模様になっています。それでも登山口でアイゼンを装着することになりました。



今回は、1月に使ったものではなく、新しい6本爪のアイゼンを持ってきましたが、装着に手間取り、メンバーをやきもきさせてしまいました。用意するときどちらにしようかと迷ったのですが、迷った時は、やはり使い慣れたものにすべきと思いました。

スタートがゆっくりだったことが功を奏

して、登山道の雪はすっかり緩んでいてとても歩きやすかったです。少し歩くともう下山するパーティーに出会いました。足元を見るとみなさんアイゼンをきっちりつけています。それを見て、麓は雪が少ないけれど、上はそれなりに装備をしないと厳しそうだと気を引き締めました。

歩き始めて約1時間位は緩やかな登りで、雪も緩んでアイゼンもよく刺さり、苦勞するところはなかったです。しかし入山者が少ないせいで踏み跡がはっきりしないところがありました。踏み跡が2つの方向に分かれ、どちらに言ったら良いのだろうと迷います。リーダーから方向を示されて、踏み跡の薄いほうを登りました。所々にそんなところがあったほかは、それほど緊張することなく登り続けることができました。

昼食は早めに摂りました。下山を考えて、休む時間を切り詰めようとのことになりました。ここからの眺望は、浅間山が指呼の間とはこのことかというくらいに目の前に迫ってきます。

ここから急になり、それなりに大変になり、アイゼンの有難みを知ります。登りきってもまだ頂上まではもう一度下りて再度登り返します。

少し遅れましたが、やっと頂上に到着しました。山頂ではめったに目にすることのないパノラマ、本当に360度隈なく山並みを見る時間を楽しみました。円形の台には有名な山が示されてありました。燧ヶ岳は手を伸ばせば掴めるほど近くに、遠くの磐梯山などの名山が見事なパノラマのようです。剣などアルプスの山並みがクッキリと見え、尾瀬の山などは手が届きそうです。しかし筑波山など関東の山はもう春霞で微かに見えただけでした。

登頂が遅くなったため、頂上の滞在はリーダーの指示で予定より早めに切り上げ、下山を急ぐことになりました。登りの時は緩んだ雪も、午後になると締まってきて、アイゼンも気持ち良いくらいに雪をかんでくれたので、思った以上に早く下ることができます。しかし、お昼で休んだところを過ぎ、木陰に差し掛かると、もう雪がだいぶ固くなり、アイゼンを強く蹴り込まないとグリップできませんでした。陽が少し陰っただけで雪の印象も大分変るものです。リーダーが下山を急ぐ理由が改めてよくわかりました。



傾斜が緩くなり登山口に近づくと、また雪も緩くなり、歩くのも楽になりました。そのせいか下山は思ったよりも早くできました。

帰りは温泉で汗を流し、「倉渕小栗の里」で地元名物の自然薯や野菜をお土産に買いました。高速の渋滞もなくほぼ予定通りに小山に戻ることができました。

記：飯田